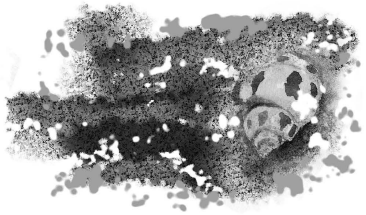

淳風集

小林貴子

皐月富士間合を詰めて来ざりけり

太陽をとりまく虹の淡き環

浄蓮の滝の水得て山葵長け

滝といふ森の核にて身を正す

扉開きに柱状節理滝を浴び

滝に背を向ければ恋の消えてをり

草刈の円盤が石弾く音

梅雨穂草不穏分子がその中に

夏シャツに「生きて帰れぬ島流し」

島十練子の花とか夏の灯台へ

海蝕のどんどん進み花蘇鉄

転舵してしばし白シャツ帆孕みに

俳句弾々

小林貴子

四月に行われたリーダー研修会に先立って、疑問・質問・悩み事を出して頂いたが、その内容はいずれも真摯なものだった。また、質問を発した人はそうでない人よりも既に回答や解決に近づいていると思った。

例「俳句を始めたばかりの頃は何を見ても聞いても感動の連続で、あっという間に十三年目に入ってしまいました。最近、同じような句ばかり作っているような気がします。感動をストレートに上手に表わしたいと思いますが、なかなかうまくいきません。秀句を学んだり、読書、芸術鑑賞など、自分磨きが肝心なのだと思いますが……」

上の例などは、ほぼ自己解決していると言えよう。ただ、「自己模倣からの脱却が難しい」という悩みは、他にも複数寄せられた。作って提出した句に類想句があるかどうかは、選者に判断を任せておけばよい。むしろ自己模倣に気をつけよということは、亡き中島畦雨さんもよくおっしゃった。第一に、自己作品はしっかり記録し、何年後でもすぐに出して見て確認できるようにしておくこと。第二に、意識して今まで詠ったことのない季語での作句を考えてみること。これは有季の俳句ならではの方法だ。第三に、矛盾するようだが、そのテーマはまだ自分としては詠い切っていないということなので、とことん作って詠い尽してみるのも良いだろう。